



## 『ペチカ』

作詞：北原 白秋

作曲：山田 耕筈

雪の降る夜は 楽しいペチカ  
ペチカ燃えろよ お話ししましょ  
むかしむかしよ 燃えろよペチカ

雪の降る夜は 楽しいペチカ  
ペチカ燃えろよ 表は寒い  
くりやくりやと 呼びますペチカ

雪の降る夜は 楽しいペチカ  
ペチカ燃えろよ じき春来ます  
今にやなぎも 燃えましょペチカ

雪の降る夜は 楽しいペチカ  
ペチカ燃えろよ 誰だか来ます  
お客様でしょ うれしいペチカ

雪の降る夜は 楽しいペチカ  
ペチカ燃えろよ お話ししましょ  
火の粉ぱちぱち はねろよペチカ



## 「推し」

校長 蒲谷 猛

古い話ですが、私が小学生のころはザ・ドリフターズ最盛期。人気沸騰の核となるのは『8時だヨ！全員集合』であることはみなさんご存じのとおりですが、この番組を見ないで学校に行くと友達と話題が共有できず「仲間はずれ感」を感じるほどでした。同じように、中学生のころは、深夜ラジオ番組『オールナイトニッポン』を聴かないで翌日学校に行くと、やはり同じように共通の話題で盛り上がるのができなくなるので、この番組を聴きながら深夜勉強をすることは当時の定番となっていました。

視聴率15%が「高視聴率番組」の1つのボーダーラインとされる近年ですが、『8時だヨ！全員集合』は毎回40～50%の視聴率で、最高視聴率は日本のバラエティ番組史上最高の50.5%、『オールナイトニッポン』全盛期のラジオ聴取占有率が80～90%だそうですから、驚異的な数字です。子どもの世界だけでなく大人も含めてたくさんの方が同じ番組を視聴し、共有できる話題をもっていたことは確かですね。

最近はというと、「推し」という言葉が急速に世間に浸透しています。もともとは、一推しのメンバーを意味するオタク用語だったということですが、今では、熱い想いで応援している人物だけでなく、愛好する物事、熱意をもって取り組んでいることなど、すべて「推し」に該当するようです。いわゆるZ世代が推進層で、某調査ではZ世代の35.6%が「推し活」をしていると回答していて、また、別調査結果ですが、「現在、『推し』がいる」と答えたシニア女性は35.2%いるのだそうです。

本校の子どもたちもよく、「校長先生、〇〇っていうユーチューバー知ってますか。私の「推し」なの。」「そうなんだよ、Aちゃんは〇〇が推しだけど、私の「推し」は☆☆。」と話しかけてくれます。話しかけてくれた2人に「推し」がいることは共通していますが、「推し」の対象は別々です。「推し」の高数字と私の昔話の高数字との違いはここですね。「推し」によって「嗜好の多様化」が進み、「自分は」が主張しやすく、個々の「自分は」を互いに認めやすくなっているように、子どもたちの会話から強く感じています。

「共有・共通」が少なくなることが人のかかわりの希薄化につながるのではと憂える自分がいましたが、多様化・細分化の時代に生きる子どもたちは、想像以上に、自分を主張し他の主張も受け止め合いながら人と豊かにかかわっているように見え、これからの社会を創るこの子たちが何だか頼もしくさえ思えてきています。個の主張と相互受容・相互尊重にもとづく「共生」なんて、とても素敵じゃないですか。

今月4日～10日は、人権週間。「ちがいやズレ」は素敵なことで、排除の対象ではないこと、誰もが「ありのままの自分」でいられる人間関係が大切であること、一人ひとりかけがえのない存在であることなど、今の時代に生きる子どもたちとていねいに語り合っていきたいと思います。